

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

複数の鯨を収容する容器本体と、外部から鯨を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる鯨用包装容器における容器本体において、

鯨を載置する底面部に、1個ずつ斜めに行列配置させる鯨の間に入り込む上向き突出部であって底面部からの突出高さを0.3mm～15mm、より好ましくは2mm～15mmとして鯨のスライド移動を防止する鯨止突起を形成したことを特徴とする容器本体。

【請求項 2】

鯨止突起を、上向き突出部であり隣接する鯨の鯨間を表示する仕切突起とは別に形成した請求項1記載の容器本体。

10

【請求項 3】

鯨止突起が、仕切突起よりも上方に突出している請求項1または請求項2記載の容器本体。

【請求項 4】

鯨止突起が、短辺部分で隣接する鯨のその鯨間に入り込む突出部であり、仕切突起が、長辺部分で隣接する鯨のその鯨間を表示する突出部である請求項1～請求項3何れか1項記載の容器本体。

【請求項 5】

鯨止突起を仕切突起から離間して形成した請求項1～請求項4何れか1項記載の容器本体。

20

【請求項 6】

鯨止突起が、短辺部分で隣接する鯨に対して長辺部分で隣接する鯨のその長辺に接触する突出部である請求項1～請求項5何れか1項記載の容器本体。

【請求項 7】

個々の鯨止突起が底面部から立て壁状に突出した形状であり、隣り合う鯨止突起どうしが平面視で平行四辺形の対向する2辺に位置するように配置される請求項1～請求項6何れか1項記載の容器本体。

【請求項 8】

底面部の周縁に壁部を設け、蓋体に係合する蓋体受け部よりは一段低く、鯨の下部に接触可能な周縁段部をこの壁部に形成した請求項1～請求項7何れか1項記載の容器本体。

30

【請求項 9】

底面部から下向きに突出する脚部であって、底面部の一の対角上の角縁には底面部の二辺に渡る角脚部を形成し、他の対角上の角縁近傍には底面部の長辺に沿う辺脚部を形成した請求項1～請求項8何れか1項記載の容器本体。

【請求項 10】

底面部と脚部との境界全体に底面部より上向きに突出するせき部を設けた請求項9記載の容器本体。

【請求項 11】

底面部の周縁に蓋体に係合する蓋体受け部を設け、その蓋体受け部の四隅がその四隅の近傍よりも上側に位置するように形成した請求項1～請求項10何れか1項記載の容器本体。

40

【請求項 12】

複数の鯨を収容する容器本体と、外部から鯨を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる鯨用包装容器において、

容器本体が、請求項1～請求項11何れか1項記載の容器本体であり、

蓋体が、容器本体に収容される鯨の上方を覆う天井部に、鯨間に入り込む下向き突出部を有する蓋体であって、

平面視で蓋体に設けた下向き突出部と容器本体に設けた上向き突出部とが重なる位置に形成されていることを特徴とする鯨用包装容器。

【発明の詳細な説明】

50

【技術分野】

【0001】

本発明は販売用または持ち帰り用などとして用いられる握り鮎や押し鮎等を収容する鮎用包装容器の容器本体に関する。

【背景技術】

【0002】

コンビニエンスストアやスーパーマーケット等において利用され、販売用の握り鮎等を収容する鮎用包装容器は、合成樹脂シートから成形され上げ底状の底部が略平坦面をなす皿型の容器本体と、透明な合成樹脂シートから成形され容器本体に被せる蓋体とから構成されており、鮎を1個ずつ斜めに複数行、複数列に行列配置して収容する例が見られる。

10

【0003】

こうした鮎用包装容器に収容される鮎は、陳列されているときには問題にならないが、持ち運びする際には、その振動や容器の傾きによって位置ずれを起こし、容器の片側に片寄ってしまったたり、場合によってはひっくり返ってしまったりと、収容状態が乱れて見栄えが悪くなってしまうことがあった。

【0004】

こうした問題を解決する技術として、特開2002-95429号公報(特許文献1)には、収容される鮎の下部がほぼ丁度入る比較的浅い凹部を容器本体に設けて位置決めできるようにし、蓋体にも鮎の上部を収容できる下方向きに開口した凹部を設けて、収容される鮎を個装状態に保持する技術が記載されている。

20

【0005】

この発明では、鮎ごとに収容される凹部が容器本体に形成されるため、鮎ずれは起きにくくなるものの、鮎の下部が容器本体に埋もれてしまい、店頭で陳列されるときから鮎が小さく見えてしい見栄えが悪くなっていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】特開2002-95429号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

30

【0007】

本発明は上記課題に鑑みてなされたものであり、持ち運びされても収容される鮎の位置ずれを起こしにくい鮎用包装容器の容器本体を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

すなわち、複数の鮎を収容する容器本体と、外部から鮎を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる鮎用包装容器における容器本体について、鮎を載置する底面部に、1個ずつ斜めに行列配置させる鮎の間に入り込む上向き突出部であって底面部からの突出高さを0.5mm~15mm、より好ましくは2mm~15mmとして鮎のスライド移動を防止する鮎止突起を形成したことを特徴とする容器本体を提供する。

40

【0009】

複数の鮎を収容する容器本体と、外部から鮎を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる鮎用包装容器における容器本体について、鮎を載置する底面部に1個ずつ斜めに行列配置させる鮎の間に入り込む上向き突出部であって底面部からの突出高さを0.5mm~15mm、より好ましくは2mm~15mmとして鮎のスライド移動を防止する鮎止突起を形成したため、持ち運びする際の振動や容器の傾きがあっても、鮎が鮎止突起で規制されるため、容器の片側に寄ってしまったたり、ひっくり返ってしまったたりし難くすることができる。

【0010】

こうした鮎止突起は、上向き突出部であって隣接する鮎の鮎間を表示する仕切突起とは

50

別に形成することができる。仕切突起は鯔止突起と同様に上向き突出部として形成されているものであっても、隣接する鯔間の位置を表示できれば良く、突出高さを低く抑えることができる一方で、鯔止突起は鯔の移動を防ぐために突出高さを鯔が動かないような高さとする必要があるからである。

したがって、鯔止突起は仕切突起よりも上方に突出しているものとするのが一態様であり、鯔止突起を仕切突起よりも上方に突出させれば、仕切突起に鯔止め機能が認められないときでも、鯔止突起で確実に鯔止めを行うことができる。

【0011】

鯔止突起が短辺部分で隣接する鯔のその鯔間に入り込む突出部であり、仕切突起が長辺部分で隣接する鯔のその鯔間を表示する突出部とすることができる。

10

鯔止突起が短辺部分で隣接する鯔のその鯔間に入り込む突出部であり、仕切突起が長辺部分で隣接する鯔のその鯔間を表示する突出部としたため、一の鯔止突起が容器本体に対する平面視で、上下方向だけでなく左右方向に対する明確な鯔止め機能を発揮させることができる。

【0012】

鯔止突起を仕切突起から離間して形成しても良い。鯔止突起を仕切突起から離間させたため、鯔止突起を仕切突起から離間させずにくっつけた場合と異なり、鯔配列の自由度を増大させることができる。鯔止突起といえども鯔間の境界を明示することから仕切突起としても機能を有するため、仕切突起と鯔止突起とが離間せずにくっついていると鯔の配置位置がとても分かりやすい。ところが、鯔の数を減らす場合や、鯔以外の品物を入れるような場合等に盛りつけ変更をするときもある。こうした場合には鯔止突起と仕切突起とが一連にくっついていると鯔間がはっきりと区切られており、この区切りに逆らって盛りつけることがし難くなる。これに対して鯔止突起が仕切突起から離間して形成されていると、仕切突起の位置に拘束されずに配置変更がし易くなる。

20

【0013】

鯔止突起を短辺部分で隣接する鯔に対して長辺部分で隣接する鯔のその長辺に接触するように構成できる。鯔止突起が、短辺部分で隣接する鯔に対して長辺部分で隣接する鯔のその長辺に接触する突出部としたため、鯔の長辺に沿う方向だけでなく、鯔の短辺に沿う方向でも鯔止突起に鯔が当たることになり、鯔の移動をよりし難くすることができる。

【0014】

30

個々の鯔止突起が底面部から立て壁状に突出した形状であり、隣り合う鯔止突起どうしが平面視で平行四辺形の対向する2辺に位置するように配置することができる。

個々の鯔止突起を底面部から立て壁状に突出した形状とし、隣り合う鯔止突起どうしを平面視で平行四辺形の対向する2辺に位置するように配置したため、鯔の短辺部分を鯔止突起の壁面に当てる一方で別の鯔の長辺部分をこの鯔止突起の端部に当て易い配置となる。そのため、鯔の移動が起こりにくい容器本体とし易い。

【0015】

底面部の周縁に壁部を設け、蓋体に係合する蓋体受け部よりは一段低く、鯔の下部に接触可能な周縁段部をこの壁部に形成することができる。

40

底面部の周縁に壁部を設け、蓋体に係合する蓋体受け部よりは一段低く、鯔の下部に接触可能な周縁段部をこの壁部に形成したため、握り鯔の場合はしゃりの部分をこの周縁段部に当てることで、鯔止突起とともに鯔の移動を起こしにくくすることができる。

【0016】

底面部から下向きに突出する脚部であって、この脚部のうち底面部の一の対角上の角縁には底面部の二辺に渡る角脚部を形成し、他の対角上の角縁近傍には底面部の長辺に沿う辺脚部を形成することができる。

底面部から下向きに突出する脚部を設けたため、上げ底状に鯔を盛りつけることができ、鯔用包装容器に高級感を与えることができる。また、底面部の一の対角上の角縁には底面部の二辺に渡る角脚部を形成し、他の対角上の角縁近傍には底面部の長辺に沿う辺脚部を形成したため、鯔を載置する底面部を上げ底状に安定的に置くことができる。そして、

50

脚部を角脚部と辺脚部とで構成したため、容器本体の安定感と強度とをともに実現することができる。

【 0 0 1 7 】

底面部と脚部との境界全体に底面部より上向きに突出するせき部を設けることができる。底面部と脚部との境界全体に底面部より上向きに突出するせき部を設けたため、脚部の底に溜まった水分を底面部の方に流れにくくすることができる。また、底面部に溜まった水分を脚部に流れにくくすることができる。また、脚部と底面部との境界での強度を高く保ち壊れにくい容器本体とすることができる。

【 0 0 1 8 】

底面部の周縁に蓋体に係合する蓋体受け部を設け、その蓋体受け部の四隅がその四隅の近傍よりも上側に位置するように形成することができる。底面部の周縁に蓋体に係合する蓋体受け部を設け、その蓋体受け部の四隅がその四隅の近傍よりも上側に位置するように形成したため、対角上の角を両手で押すことで蓋体を容器本体から容易に取り外すことができる。また、四隅が上側に位置することで鯨用包装容器に高級感を付与することができる。

10

【 0 0 1 9 】

さらに、複数の鯨を収容する容器本体と、外部から鯨を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる鯨用包装容器について、容器本体が前述の容器本体であり、蓋体が容器本体に収容される鯨の上方を覆う天井部に、鯨間に入り込む下向き突出部を有する蓋体であって、平面視で蓋体に設けた下向き突出部と容器本体に設けた上向き突出部とが重なる位置に形成されていることを特徴とする鯨用包装容器を提供する。

20

蓋体にも鯨間に入り込む下向き突出部を設けており、容器本体に設けた上向き突出部との両方で鯨を上下から挟むため、鯨の移動を抑えることができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 2 0 】

本発明の鯨用包装容器の容器本体によれば、持ち運びする際の振動や容器の傾きがあっても、鯨が容器の片側に寄ってしまったり、ひっくり返ってしまったりする鯨ずれを起こしにくくして見栄えの良い状態を保つことができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 1 】

30

【 図 1 】 鯨用包装容器における容器本体の平面図である。

【 図 2 】 図 1 の正面図である。

【 図 3 】 鯨用包装容器における蓋体の平面図である。

【 図 4 】 別の実施形態における容器本体の平面図である。

【 図 5 】 また別の実施形態における容器本体の平面図である。

【 図 6 】 さらに別の実施形態における容器本体の平面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 2 2 】

本発明の実施形態について、図面を参照しつつ説明する。

図 1、図 2 には複数の鯨を収容する容器本体 10 を、図 3 にはこの容器本体 10 に被着させる透明な蓋体 30 を示す。鯨用包装容器 1 はこの容器本体 10 と蓋体 30 とから構成される。

40

【 0 0 2 3 】

図 1 で示すように容器本体 10 は、平面視で略長形状とされ、鯨を載置する底面部 11 は、この底面部 11 から下向きに突出する脚部 12 によって上げ底状に形成されている。また、底面部 11 には、鯨の間に入り込む上向き突出部 14 を設けており、鯨のスライド移動を防止する鯨止突起 15 と、隣接する鯨の鯨間を表示する仕切突起 16 とに分けて形成されている。

底面部 11 の端となる周縁には壁部 17 を有し、この壁部 17 には蓋体 2 に係合する蓋体受け部 18 と、蓋体受け部 18 の内側に蓋体受け部 18 よりは一段低い周縁段部 19 が

50

形成されている。さらに、底面部 1 1 と脚部 1 2 の境界には上向きに突出するせき部 2 0 が形成されている。

【0024】

図 1 で示す実施形態では、10 個の鰭 1 3 を収容できるように作られた容器本体 1 1 であり、斜めに 5 個 (5 列) 並べた鰭を 2 段 (2 行) に置くことができるように上向き突出部 1 4 が設けられている。即ち、上向き突出部 1 4 のうち図 1 で示した仕切突起 1 6 a は、左上から右下向きの線状に形成されて、一定間隔をもって配置され、後述する鰭止突起 1 5 a の周りに 10 個形成されている。この仕切突起 1 6 a は直方体形の一般的な握り鰭の長辺部分で隣接する鰭のその鰭間を表示している。一方、鰭止突起 1 5 a は、右上から左下向きの線状に形成されて一定間隔をもって配置され、底面部 1 1 の中央部分に横方向に 4 つ並んで設けられている。換言すれば、個々の鰭止突起 1 5 a は底面部 1 1 から立て壁状に突出した形状として構成され、隣り合う鰭止突起 1 5 , 1 5 どうしが平面視で平行四辺形の対向する 2 辺に位置するように配置されている。仕切突起 1 6 や鰭止突起 1 5 で囲まれた中に握り鰭を置けば、斜めに置かれた 1 個ずつの鰭が行列配置する綺麗な盛りつけができるようになっている。

10

【0025】

こうした仕切突起 1 6 は、個々の鰭 1 3 を配置する目安または境界を示す表示であるため、上向き突出部 1 4 であるといえども、底面部 1 1 から僅かに隆起したものとなっている。しかしながら仕切突起 1 6 は、仕切りを表示できれば良く、場合によっては上向き突出部 1 4 として形成せず、下向きに凹んだ凹部としたり、凹凸を設けずに印刷表示したりすることも可能である。むしろあまり突出して設けると、鰭の端が仕切突起 1 6 にかかっただけで鰭が傾いたりするおそれがあるため、鰭を起きにくく作業性が劣ってしまう。また、鰭の大きさも制限されるため、あまり突出させない方が好ましい。但し、あまり突出させない仕切突起 1 6 といえども突出することによる鰭止め機能が全く生じないこともないから、上向き突出部 1 4 として形成する態様は好ましい。

20

【0026】

一方、鰭止突起 1 5 は、直方体形の一般的な握り鰭の短辺部分で隣接する鰭 1 3 a , 1 3 b のその鰭間に入り込み、鰭 1 3 a , 1 3 b がスライドしようとしてもこの鰭止突起 1 5 a に当たって移動できないような高さに形成されている。具体的には、その高さ L 1 は、収容された鰭 1 3 の高さの $1/5 \sim 1/2$ の高さとなるように形成されることが好ましい。 $1/5$ より低いと鰭が動いてしまい易く、 $1/2$ を超えると鰭間から鰭止突起 1 5 a が見えてしまい、あまり見栄えが良くないからである。通常鰭の大きさを考慮すると、 $0.3 \text{ mm} \sim 15 \text{ mm}$ が好ましく、 $2 \text{ mm} \sim 15 \text{ mm}$ がより好ましい。 $0.3 \text{ mm} \sim 15 \text{ mm}$ とすれば小さめの鰭にも対応できるからであり、 $2 \text{ mm} \sim 15 \text{ mm}$ とすれば一般的な握り鰭の大きさに対応できるからである。なお、この鰭止突起 1 5 a の高さは後述する鰭止突起 1 5 b、1 5 c でも同様である。

30

【0027】

図 1 で示すように、鰭止突起 1 5 を仕切突起 1 6 とは区別するように、鰭止突起 1 5 を仕切突起 1 6 から離間して形成することができる。通常、鰭 1 3 は、図 1 で示す鰭 1 3 a , 1 3 b , 1 3 c のような位置に置かれるが、鰭止突起 1 5 と仕切突起 1 6 とが離れていることから鰭止突起 1 5 に沿って鰭の長手方向が位置するように、即ち、鰭 1 3 の長手方向が仕切突起 1 6 と交差する方向に盛りつけても盛りつけし易い。

40

また、図 1 で示す鰭止突起 1 5 a は、短辺部分で隣接する鰭 1 3 a , 1 3 b に対して長辺部分で隣接する鰭 1 3 c のその長辺に接触するものとなっている。したがって、この鰭止突起 1 5 a は、鰭 1 3 a , 1 3 b に対しては図 1 の上下方向の移動に対して規制を与え、鰭 1 3 c に対しては図 1 の右方向への移動に対して規制を与えるようになっている。

【0028】

底面部 1 1 の周縁には壁部 1 7 が設けられており、この壁部 1 7 には蓋体受け部 1 8 と周縁段部 1 9 が形成されている。蓋体受け部 1 8 は、後述する蓋体 3 0 の水平張出部 3 2 a と接して蓋体を支持する部位である。蓋体受け部 1 8 の四隅は、その四隅の近傍から徐

50

々に上側に高くなった最高点に位置している。周縁段部 19 は、底面部 11 と蓋体受け部 18 の間にあって、蓋体受け部 18 より一段低く、蓋体 30 に接触しないように形成されており、鯔を収容したときには、側壁 17 側での鯔の移動防止用の鯔止めとして機能する。

【0029】

脚部 12 は、底面部 11 の周縁で下向きに突出して形成される。この脚部 12 は底面部 11 の一の対角上の角縁では、容器本体 10 の長辺部分と短辺部分二辺に渡る平面視で略 L 字状の角脚部 12a として形成され、他の一の対角上の角縁近傍の長辺部分ではその長さ方向に沿う平面視で略棒状の辺脚部 12b として形成されている。

こうした脚部 12 は、下方に突出するため、ガリや醤油袋を収容するのにも利用できる。

10

【0030】

底面部 11 と脚部 12 との境界部分には底面部 11 より上向きに突出したせき部 20 を有している。せき部 20 は 4 つの脚部 12 と底面部 11 の間の全体にわたって形成されている。

【0031】

図 3 で示すように、蓋体 30 は鯔の上方を覆う天井部 31 と、容器本体 10 と係合するフランジ部 32 と、そして天井部 31 からフランジ部 32 に至る側面部 33 とから構成されており、下方に開口した伏凹形に成形され、容器本体 10 に対し被着自在とされている。

20

側面部 33 の下端外周に設けたフランジ部 32 は、外方に延びる水平張出部 32a と、その水平張出部 32a の外端より下方に折曲延成された垂下縁 32b とからなる断面釣形状に形成されており、このフランジ部 32 の水平張出部 32a が容器本体 10 の壁部 17 に設けた蓋体受け部 18 の上面に接し、かつ垂下縁 32b が蓋体受け部 18 の外周に嵌合した状態で被着されるようになっている。

【0032】

天井部 31 は、鯔 13 が見やすいように一般的には平板状としているが、図 3 で示すように、鯔間に入り込む下向き突出部 34 を形成してもよい。この下向き突出部 34 の突出深さは鯔止突起 15 の高さ程度に鯔の上部から鯔間に入り込む深さに形成することが好ましい。また、下向き突出部 34 の位置は容器本体 10 に形成した鯔止突起 15 や仕切突起 16 に合わせて形成することが好ましい。すなわち、平面視で蓋体 30 に設けた下向き突出部 34 と容器本体 10 に設けた上向き突出部 14 とが重なる位置に形成することが好ましい。上下の突出部 14, 34 で鯔を挟むことでより動き難くすることができる。

30

【0033】

容器本体 10 や蓋体 30 は何れも合成樹脂製のシート材から真空成形や圧空成形等の熱成形の手段を利用して成形できる。蓋体 30 は中味の鯔 13 が見えやすいように透明で曇りにくい合成樹脂材が用いられる一方で、容器本体 10 はその表面に種々の装飾がなされることが好ましく不透明材であって良い。

容器本体 10 や蓋体 30 の材質には、例えば、ポリスチレンやポリスチレンを主体とする共重合体等のポリスチレン系樹脂、ポリエチレンやポリプロピレン、オレフィンを主体とする共重合体等のポリオレフィン系樹脂、ポリエチレンテレフタレート等のポリエステル系樹脂、その他の各種の熱成形可能な合成樹脂が挙げられる。

40

【0034】

上記した鯔用包装容器の容器本体 10 に鯔を盛りつけるには、仕切突起 16 の間に鯔を一つずつ置くようにすれば良く、誰でも簡単に盛りつけ位置を特定することができる。また、盛りつけ後には仕切突起 16 は低い突出部であるため見えにくく、鯔止突起 15 は仕切突起 16 よりも突出しているもののしゃりを覆う鯔だねに隠されてやはり見えにくくなる。ガリや醤油袋は底面部 11 の角に設けた角脚部 12a を形成する凹部に入れることができる。こうして見栄えを損なわずに綺麗に鯔の盛りつけが完了する。

【0035】

50

鯔を盛りつけた鯔用包装容器が運搬されるときには、容器本体 10 の短手方向への鯔ずれを起こす振動や傾きに対しては、鯔の一方側では鯔止突起 15 で押さえられ、他方側では周縁段部 19 で押さえられて鯔が動きにくくなっている。このときしゃりが鯔止突起 15 に当たっていても鯔だねは鯔止突起 15 に当たりにくい位置にあるため鯔だねは新鮮に保たれる。同様に、周縁段部 19 でもしゃりが当たっても鯔だねは当たりにくいため鯔だねが新鮮に保たれる。容器本体 10 の長手方向への鯔ずれを起こす振動や傾きに対しては、鯔の一方側では鯔止突起 15 の端部分にしゃりが当たることで押さえられ、他方側では周縁段部 19 で押さえられて鯔が動きにくくなっている。鯔止突起 15 や周縁段部 19 へ鯔だねが当たりにくいのは短手方向の場合と同様である。よって、持ち運びされた後でも見栄えの良い綺麗な配置状態が保たれる。

10

【0036】

蓋体 30 を容器本体 10 から外すときには、容器本体 10 の四隅が上側に高く位置しているため、一の対角上の角を下側に押し込むことで簡単に蓋体 30 を外すことができる。また、底面部 11 から脚部 12 が下向きに突出しているため、この蓋体 30 の取り外し作業がし易いことに加えて、鯔を食べるときには盛り台に盛りつけたような高級感を味わうことができる。ガリからは水分が出ることがあるが、脚部 12 に入れられたガリから出る水分は脚部 12 の底に溜められ、また、せき部 20 が水分の流れだしを防ぐため、しゃりをぬらさずにおいしく鯔をいただくことができる。せき部 20 は、これとは反対に底面部 11 から脚部 12 への水分の移動も防止するため、醤油を底面部 11 に垂らしても脚部 12 に流れ込むことがなく、万が一醤油皿が無く底面部に醤油を垂らす場合にも便利である。

20

【0037】

図 4 には鯔止突起 15 が相違する別の実施形態である容器本体 40 を示す。図 4 で示す鯔止突起 15 b は、図 1 で示す鯔止突起 15 a が立て壁状に突出しているのに対し、円錐台状に突出している点で形状が相違している。また、鯔止突起 15 b は一の鯔止突起 15 a の両端にあたる位置に二つ設けられている点で個数が相違している。鯔を置く位置は図 1 で示す容器本体 10 と同様である。

例えば図 4 の鯔 13 a , 13 b , 13 c の略中心に位置する鯔止突起 15 b は、短辺部分で隣接する鯔 13 a , 13 b に対して長辺部分で隣接する鯔 13 c のその長辺に接触している。また、短辺部分で隣接する鯔 13 a , 13 b の間に位置してそれぞれの鯔 13 a , 13 b に接触している。そのため、鯔 13 a , 13 b に対しては図 4 における上下方向の移動を規制し、鯔 13 c に対しては図 4 における右方向の移動を規制している。

30

円錐台状に突出した鯔止突起 15 b は、突出部分の表面積が鯔止突起 15 a よりも少なく、鯔を盛りつけた状態で外部からより鯔止突起 15 を見えにくくする点で好ましい。

【0038】

図 5 には鯔止突起 15 と仕切突起 16 とが離間せずにくっついて一体となった別の実施形態である容器本体 50 を示す。図 5 で示す鯔止突起 15 c と仕切突起 16 c は、仕切突起 16 c よりも鯔止突起 15 c が上方に突出している点で図 1 の鯔止突起 15 a や 16 a と同じである。

この実施形態の容器本体 50 では、鯔止突起 15 c と仕切突起 16 c で明確に鯔間が表示されているため、鯔を置く位置がわかりやすい反面、鯔の起き位置を変更する場合には、変えた位置に置きにくいという特性を有している。

40

【0039】

図 6 には仕切突起 16 を設けない別の実施形態である容器本体 60 を示す。仕切突起 16 が無くとも鯔止突起 15 a が仕切突起 16 の機能も兼ねるため、それほど迷わず鯔を所定位置に配置することができる。

【0040】

なお、上記実施形態やその変形例で示した例は例示であり、こうした形態に限定されるものではなく、本願発明の趣旨に反しない任意の変更形態を含むものである。即ち、上記実施形態で示した一部の構成を含まなかったり、別の公知の構成を含んだり、代替したり

50

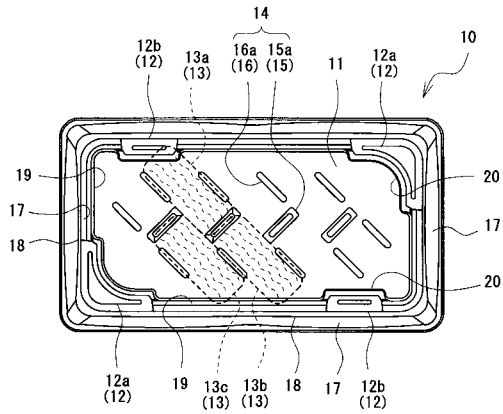
している場合も本願発明の範囲に含まれる。例えば、図４で示す鯔止突起１５ｂを図６で示す鯔止突起１５ａの代わりに設けるような態様や、図１で示す容器本体１０に脚部１２を設けずに上げ底としない態様なども当然本願発明の範囲に含まれる。

【符号の説明】

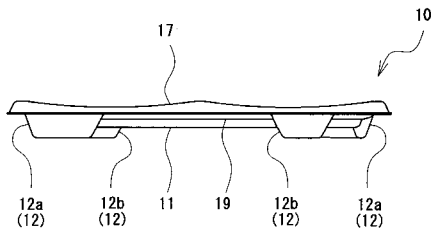
【００４１】

１	鯔用包装容器	
１０，４０，５０，６０	容器本体	
１１	底面部	
１２	脚部	
１２ａ	角脚部	10
１２ｂ	辺脚部	
１３	鯔	
１４	上向き突出部	
１５，１５ａ，１５ｂ，１５ｃ	鯔止突起	
１６，１６ａ，１６ｃ	仕切突起	
１７	壁部	
１８	蓋体受け部	
１９	周縁段部	
２０	せき部	
３０	蓋体	20
３１	天井部	
３２	フランジ部	
３２ａ	水平張出部	
３２ｂ	垂下縁	
３３	側面部	
３４	下向き突出部	

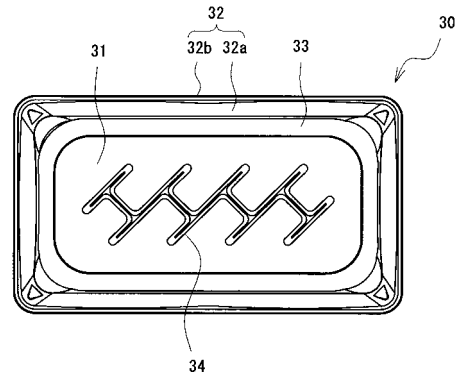
【図 1】



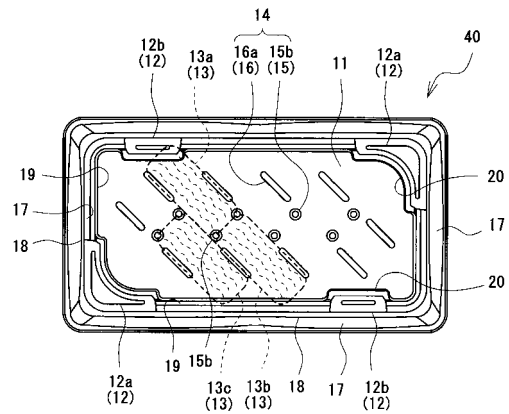
【図 2】



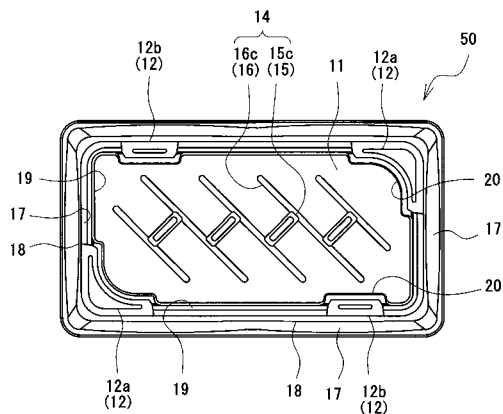
【図 3】



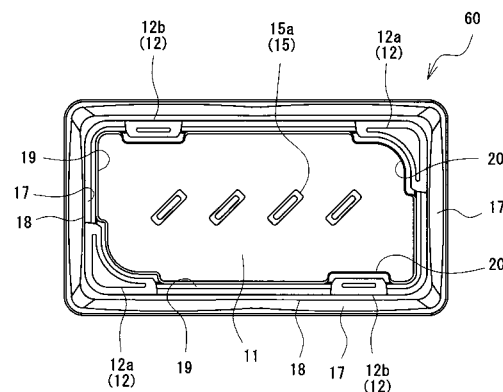
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(72)発明者 水谷 伸二

兵庫県尼崎市猪名寺3丁目5番13号 技研化成株式会社内

Fターム(参考) 3E033 AA10 BA13 CA20 DA02 DE11 EA01 GA03

3E035 AA10 BA02 BB01 BC02 CA02

3E084 AA05 AA14 AA24 AB10 BA01 CA03 CC03 DA03 DB13 DC03

FC04 GA08 GB12 KA20

4B023 LE17 LG01 LP19